



**Oracle® Business
Intelligence Suite
Enterprise Edition**
システム要件およびサポート
されるプラットフォーム

リリース 10.1.3.3、10.1.3.4
2008 年 9 月

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition システム要件およびサポートされるプラットフォーム ,
リリース 10.1.3.3、10.1.3.4

部品番号 : B51051-01

原本名 : System Requirements and Supported Platforms for Oracle Business Intelligence Suite Enterprise
Edition, Version 10.1.3.3, 10.1.3.4, Rev. H

原本部品番号 : E10417-09

Copyright © 2007, 2008, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する場合、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章： 概要

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition のドキュメント 6

サード・パーティ製品の動作確認とサポート 6

第 2 章： Oracle Business Intelligence のプラットフォーム要件

ハードウェア要件 8

Oracle Business Intelligence プラットフォームのハードウェア要件 8

Cluster Server のハードウェア要件 9

Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics のハードウェア要件 13

サーバー環境の要件 13

サポートされているサーバーのオペレーティング・システム 14

サポートされている Web サーバーとアプリケーション・サーバー 15

SMTP に対する Oracle Business Intelligence Delivers のサポート 18

ODBC クライアントと JDBC クライアントのインタフェースに対するサポート 18

Oracle Business Intelligence Server のクライアントとしてサポートされている製品 19

サポートされているデータソース 19

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition でサポートされているデータソース 20

Oracle Real Applications Clusters (RAC) に対するサポート 25

マルチディメンショナル・データソースに対するサポート 25

ODBC データソースに対するサポート 26

SSL 互換性 26

仮想化と仮想マシンのサポート 26

クライアント環境の要件 27

サポートされている Web ブラウザ 27

サポートされているクライアントのオペレーティング・システム 28

グローバル化要件 29

サポートされている環境の概要 31

第 3 章： 製品およびプラットフォームの可用性に関する最新情報

第 4 章： サポートされているソフトウェアおよび付属プログラム

サポートされているソフトウェア 36

付属プログラム 36

ライセンス契約 40

第 5 章： 計画されている動作確認

1 概要

このマニュアルには、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のシステム要件およびサポートされるプラットフォームの最終的なリストが記載されています。特に指定されていないかぎり、このマニュアルに記載された要件は、Oracle Business Intelligence 製品ラインに含まれるプラットフォームおよび関連するエンドユーザー・アプリケーションすべてに適用されます。Oracle Business Intelligence の詳細は、『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

このマニュアルの内容は次のとおりです。

- **第 1 章「概要」**（この章）。内容は次のとおりです。
 - [Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition のドキュメント](#)
 - [サード・パーティ製品の動作確認とサポート](#)
- **第 2 章「Oracle Business Intelligence のプラットフォーム要件」**。Oracle Business Intelligence のプラットフォームおよびハードウェアの要件について説明しています。
- **第 4 章「サポートされているソフトウェアおよび付属プログラム」**。Oracle Business Intelligence アプリケーションでサポート、組み込みまたは配布されている、サード・パーティ・ベンダー製のソフトウェアの詳細なリストを記載しています。
- **第 3 章「製品およびプラットフォームの可用性に関する最新情報」**。Oracle Business Intelligence での製品可用性の例外のリストを記載しています。
- **第 5 章「計画されている動作確認」**。今後の製品リリースで計画されている動作確認のリストを記載しています。

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition のドキュメント

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition のドキュメントは、Oracle Technology Network (OTN) で入手できます。

Oracle Technology Network で Oracle Business Intelligence Suite Enterprise のドキュメントにアクセスするには

「Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition Documentation Library」にアクセスします (URL は次のとおり)。

http://www.oracle.com/technology/documentation/bi_ee.html

サード・パーティ製品の動作確認とサポート

オラクル社では、広範囲にわたるテクノロジー標準とサード・パーティ製品に対して Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の動作確認とサポートを行っています。

動作確認が行われたサード・パーティ製品は、標準のリリース・プロセスの一環としてテストされたものです。一般的に使用されるサード・パーティ製品の動作確認をオラクル社は鋭意行っていますが、すべてのサード・パーティ製品やすべての可能な構成に対して動作確認を行っているわけではありません。Oracle Business Intelligence Enterprise Edition との統合やサード・パーティ製品の互換性に対して標準ベースのテストもオラクル社では実施しています。Oracle BI EE でサポートされている標準に準拠するサード・パーティ製品は、Oracle BI EE での使用がサポートされています。サポートされているサード・パーティ製品の場合、サード・パーティのコンポーネントが含まれている Oracle BI EE 構成に対するサービス・リクエストを Oracle サポート・サービスでは受け付けます。

動作確認が行われたサード・パーティ製品は、このマニュアルに記載されています。Oracle BI EE でサポートされている標準やプロトコルも記載されています。これによって、動作確認済として具体的に記載されていない特定のサード・パーティ製品がサポートされているかどうかを調べるのに役立ちます。

2

Oracle Business Intelligence のプラットフォーム要件

この章の内容は次のとおりです。

- ハードウェア要件
- サーバー環境の要件
- サポートされているデータソース
- クライアント環境の要件
- グローバリゼーション要件
- サポートされている環境の概要

ハードウェア要件

この項では、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3 と 10.1.3.4 のハードウェアおよびネットワークの要件について説明します。

オラクル社では、この項に示した環境において、許容可能なパフォーマンスが実現することを動作確認しています。ただし、さらに高速のプロセッサを使用したりメモリを増設すると、パフォーマンスがさらに向上します。

注意: 表 1、表 2、表 3、および表 4 に示したハードウェア要件は、Oracle BI EE の C++ コンポーネントの最小要件であり、スケーラビリティに影響する様々な要素が考慮されていないため、あくまでガイドラインとして使用してください。キャパシティ・プランニングまたは拡張のサポートについては、ハードウェア・ベンダーまたは Oracle Consultancy にお問い合わせください。

Oracle Business Intelligence プラットフォームのハードウェア要件

Oracle Business Intelligence C++ コンポーネントのハードウェア要件については、表 1 および 9 ページの表 2 で説明します。

表 1. Windows における Oracle Business Intelligence の最小要件

説明	要件
Oracle Business Intelligence Server のコンポーネント： Oracle Business Intelligence Server Oracle Business Intelligence Administration Tool Oracle Business Intelligence Scheduler	<p>CPU および RAM: 1GHz、2GB RAM</p> <p>ディスク領域: 2GB のハードディスク領域、およびキャッシュ記憶域と Scheduler 結果セット用の適切なディスク領域（「一時ディスク領域」を参照）。</p> <p>一時ディスク領域: 2GB</p>
Oracle Business Intelligence Presentation Services	<p>CPU および RAM: 1GHz、2GB RAM</p> <p>ディスク領域: 2GB のハードディスク領域、およびキャッシュ記憶域とログ・ファイル用の適切なディスク領域（「一時ディスク領域」を参照）。</p> <p>一時ディスク領域: 2GB</p>

Cluster Server のハードウェア要件

表 2. Linux と UNIX における Oracle Business Intelligence の最小要件

説明	要件
Oracle Business Intelligence Server のコンポーネント： Oracle Business Intelligence Server Oracle Business Intelligence Scheduler	CPU および RAM: 1GHz、2GB RAM ディスク領域: 2GB、およびキャッシュ記憶域と Scheduler 結果セット用の適切なディスク領域（「一時ディスク領域」を参照）。 一時ディスク領域: 2GB
Oracle Business Intelligence Presentation Services	CPU および RAM: 1GHz、2GB RAM RAM: 2GB 以上 ディスク領域: 2GB、およびキャッシュ記憶域とログ・ファイル用の適切なディスク領域（「一時ディスク領域」を参照）。 一時ディスク領域: 2GB

Cluster Server の要件については、[表 3](#) および [11 ページの表 4](#) で説明します。

表 3. Windows における Cluster Server の要件

説明	要件
クラスタ化された Oracle Business Intelligence Server をホスティングするマシン、または Oracle Business Intelligence Server、Oracle Business Intelligence Scheduler および Cluster Controller をホスティングするマシン	プロセッサおよび RAM: 1GHz、2GB RAM ディスク領域: 1GB

表 3. Windows における Cluster Server の要件

説明	要件
Cluster Controller または Oracle Business Intelligence Scheduler をホスティングするマシン	<p>プロセッサおよび RAM:</p> <p>500MHz、1GB</p> <p>ディスク領域:</p> <p>約 100MB のハードディスク領域</p>
リポジトリ公開ディレクトリとして使用する共有ファイル・システム	<p>リポジトリがオンライン・モードで更新されると、リポジトリ公開ディレクトリに対して、クラスタ化されたサーバーがすべて、リポジトリの変更がないかを起動時に検査することが公開されます。リポジトリ公開ディレクトリの場所は、NQSCONFIG.INI ファイルの REPOSITORY_PUBLISHING_DIRECTORY パラメータで指定します。</p> <p>特徴:</p> <p>リポジトリ公開ディレクトリは、クラスタ内のすべてのサーバーで認識できる有効な場所に配置する必要があります。</p> <p>クラスタ内のすべての Oracle Business Intelligence Server (NQClusterConfig.ini ファイルのパラメータ SERVERS で指定) には、このディレクトリに対する読取りアクセス権および書込みアクセス権が必要です。¹</p> <p>ディスク領域:</p> <p>約 200MB のハードディスク領域</p> <p>クラスタ化すると、共有ファイル・システムに発生する I/O ロードが最小になることに注意してください。クラスタ処理を正常に実行できる信頼性の高いファイル・システムであるかぎり、使用するファイル・システムの推奨タイプは特にありません。</p>

表 3. Windows における Cluster Server の要件

説明	要件
クラスタ対応キャッシュとともに使用する共有ファイル・システム	クエリー・キャッシュがクラスタ全体で共有されているとき、アクティビティのキューに入っている、(iBot または ODBC プロシージャ・コールからの) キャッシュをシードするリクエストは、共有ディレクトリで管理されます。すべての Oracle Business Intelligence Server には、このディレクトリに対する読取りアクセス権および書込みアクセス権が必要です。 ¹ ディスク領域: キャッシュ記憶域に適したディスク領域は、具体的なデプロイ状況によって異なります。
Presentation Catalog とともに使用する共有ファイル・システム ²	特徴: すべての Oracle Business Intelligence Presentation Services サーバーには、このディレクトリに対する読取りアクセス権および書込みアクセス権が必要です。 ¹ ディスク領域: Presentation Catalog に適したディスク領域は、具体的なデプロイ状況によって異なります。

1. Oracle Business Intelligence のサービスは、ネットワーク共有に対するアクセス権を持つドメイン・ユーザーとして実行する必要があります。Microsoft Windows では、system アカウントには、ネットワーク共有に対する読取りまたは書込みが許可されません。

2. 共有ファイル・システムには、Network Attached Storage (NAS) や Storage Area Network (SAN) などのストレージ・デバイスを使用できます。Presentation Catalog は、SAN では Oracle Cluster File System (OCFS2)、NAS では NFS でテスト済です。

表 4. Linux と UNIX における Cluster Server の要件

説明	要件
クラスタ化された Oracle Business Intelligence Server をホスティングするマシン、または Oracle Business Intelligence Server、Oracle Business Intelligence Scheduler および Cluster Controller をホスティングするマシン	CPU: 1GHz RAM: 2GB ディスク領域: 2GB
Cluster Controller または Oracle Business Intelligence Scheduler をホスティングするマシン	CPU: 500MHz RAM: 1GB ディスク領域: 2GB

表 4. Linux と UNIX における Cluster Server の要件

説明	要件
リポジトリ公開ディレクトリとして使用する共有ファイル・システム	<p>リポジトリがオンライン・モードで更新されると、リポジトリ公開ディレクトリに対して、クラスタ化されたサーバーがすべて、リポジトリの変更がないかを起動時に検査することが公開されます。リポジトリ公開ディレクトリの場所は、NQSCONFIG.INI ファイルの REPOSITORY_PUBLISHING_DIRECTORY パラメータで指定します。</p> <p>特徴:</p> <p>リポジトリ公開ディレクトリは、クラスタ内のすべてのサーバーで認識できる有効な場所に配置する必要があります。</p> <p>クラスタ内のすべての Oracle Business Intelligence Server (NQClusterConfig.ini ファイルのパラメータ SERVERS で指定) には、このディレクトリに対する読取りアクセス権および書込みアクセス権が必要です。</p> <p>ディスク領域:</p> <p>約 200MB のハードディスク領域</p> <p>クラスタ化すると、共有ファイル・システムに発生する I/O ロードが最小になることに注意してください。クラスタ処理を正常に実行できる信頼性の高いファイル・システムであるかぎり、使用するファイル・システムの推奨タイプは特にありません。</p>
クラスタ対応キャッシュとともに使用する共有ファイル・システム	<p>クエリー・キャッシュがクラスタ全体で共有されているとき、アクティビティのキューに入っている、(iBot または ODBC プロシージャ・コールからの) キャッシュをシードするリクエストは、共有ディレクトリで管理されます。</p> <p>ディスク領域:</p> <p>キャッシュ記憶域に適したディスク領域は、具体的なデプロイ状況によって異なります。</p>

表 4. Linux と UNIX における Cluster Server の要件

説明	要件
Presentation Catalog とともに使用する共有ファイル・システム	特徴: すべての Oracle Business Intelligence Presentation Services Instance には、このディレクトリに対する読取りアクセス権および書込みアクセス権が必要です。 ディスク領域: Presentation Catalog に適したディスク領域は、具体的なデプロイ状況によって異なります。

Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics のハードウェア要件

Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics の要件について、表 5 で説明します。

表 5. Microsoft Windows/Windows XP における Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics の要件

要件の説明	プロセッサ	使用可能なディスク領域	RAM
最小	最新型のプロセッサ (最低でも 800MHz)	1GB	512MB
MS Office アプリケーションに推奨	最新型のプロセッサ (最低でも 800MHz)	1GB	512MB
Siebel Remote アプリケーションに推奨	最新型のプロセッサ (最低でも 800MHz)	2GB	512MB

サーバー環境の要件

この項の内容は次のとおりです。

- サポートされているサーバーのオペレーティング・システム
- サポートされている Web サーバーとアプリケーション・サーバー
- SMTP に対する Oracle Business Intelligence Delivers のサポート
- ODBC クライアントと JDBC クライアントのインターフェースに対するサポート

サポートされているサーバーのオペレーティング・システム

Oracle Business Intelligence は、表 6 に記載されたサーバーのオペレーティング・システムをサポートしています。また、表 7 に記載された、サポートされているサーバーのオペレーティング・システムのパッチ・レベルをサポートします。

表 6. サポートされているサーバーのオペレーティング・システム

クライアント・タイプ	オペレーティング・システム ¹
Oracle Business Intelligence Server	Microsoft Windows 2000/2003 Server
Oracle Business Intelligence Presentation Services	Microsoft Windows Server 2008 Enterprise Edition x86 (32 bit) ²
Oracle Business Intelligence Publisher	Red Hat Enterprise Linux AS 4.x
	Red Hat Enterprise Linux Server/Advanced Platform 5
	Novell SUSE 9.x
	Oracle Enterprise Linux 4
	Oracle Enterprise Linux 5
	Sun Solaris 9 (32 ビット版 SPARC)
	Sun Solaris 9 (64 ビット版 SPARC)
	Sun Solaris 10 (32 ビット版 SPARC)
	Sun Solaris 10 (64 ビット版 SPARC)
	AIX 5.2 (32 ビット版 PowerPC)
	AIX 5.2 (64 ビット版 PowerPC)
	AIX 5.3 (32 ビット版 PowerPC)
	AIX 5.3 (64 ビット版 PowerPC)
	AIX 6.1 (32 ビット版 PowerPC) ²
	AIX 6.1 (64 ビット版 PowerPC) ²
HP-UX 11.11 (64 ビット版 PA-RISC) ³	
HP-UX 11.23 (64 ビット版 PA-RISC) ³	
HP-UX 11.23 (64 ビット版 Itanium) ⁴	
HP-UX 11.31 (64 ビット版 Itanium 64) ^{2, 4}	

1. 64 ビット版の Windows および Linux のサポート：Windows 版および Linux 版の場合、Oracle BI EE ソフトウェアは 32 ビット版です。ソフトウェアは、32 ビット・エミュレーションをサポートする 64 ビット・プロセッサで実行できます。サポートされているプロセッサは、AMD64 および EM64T です。注意：このマニュアルのレビジョン A とレビジョン B では、サポートされているプロセッサとして Itanium2 が誤って記載されていました。

2. Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.4 でサポートされています。

- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のバイナリは、32 ビット版のバイナリです。
- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のバイナリは、32 ビット版のバイナリおよび 64 ビット版のバイナリです。

表 7. サポートされているサーバーのオペレーティング・システムのパッチ・レベル

サーバーのオペレーティング・システム	パッチ・レベル
Microsoft Windows 2000 Server/Advanced Server	Service Pack 4 (5.0.2.195) ¹ 以上
Microsoft Windows 2003	SP1 以上
Microsoft Windows 2003 R2	なし
IBM AIX 5.3 ²	推奨：AIX 5.3。ML05 以上
HP-UX 11.23 (64 ビット版 Itanium)	推奨：Quality Pack Bundle for HP-UX 11i v2 (2007 年 3 月版) と Pthread ライブラリ累積パッチ PHCO-34944

- Service Pack 4 (5.0.2.195) では、KERNEL32.DLL 5.0.2195.6897 以上が必要です。Windows HotFix KB835732 以上を適用してください。
- IBM AIX には、C++ のランタイム・バージョン xIC.aix50.rte 9.0.0.3 以上が必要です。

サポートされている Web サーバーとアプリケーション・サーバー

サーブレット仕様バージョン 2.3 以上がサポートされている J2EE ベース・アプリケーション・サーバーは、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition での使用がサポートされています。アプリケーション・サーバーでは、SOAP 1.1 クライアント、Axis 1.2 ~ 1.4、JWS DP 2.0 (Sun/Jdeveloper SOAP クライアント) および .NET 2.0 がサポートされている必要があります。

表 8 に示す Web サーバーとアプリケーション・サーバーは、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で動作確認されています。

表 8. 動作確認されている Web サーバーとアプリケーション・サーバー

サーバーのオペレーティング・システム	Web サーバーまたはアプリケーション・サーバーとパッチ・レベル
Linux と UNIX (14 ページの表 6 を参照)	Oracle Application Server リリース 10.1.3.1、10.1.3.3 Oracle Weblogic 9.x、10.0 ¹ IBM WebSphere Application Server のバージョン 5.1、6.0、6.1 Sun Java System Web Server 6.1、7.0 Apache Tomcat 5.5.x JBoss Application Server 4.0 ¹
Microsoft Windows (14 ページの表 6 を参照)	Oracle Application Server リリース 10.1.3.1、10.1.3.3 Oracle Weblogic 9.x、10.0 ¹ Windows 2000 では Microsoft IIS 5.0、Windows 2003 では IIS 6.0 ² IBM WebSphere Application Server のバージョン 5.1、6.0、6.1 Sun Java System Web Server 6.1、7.0 Apache Tomcat 5.5.x JBoss Application Server 4.0 ¹

1. Oracle Weblogic 10.0 および JBoss アプリケーション・サーバー 4.0 は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.4 で動作確認されました。

2. Microsoft IIS は、Oracle Business Intelligence Publisher と Oracle Business Intelligence Office Server の HTTP サーバーとして Oracle Application Server Proxy Plug-in 経由でサポートされています。Oracle Business Intelligence Publisher と Oracle Business Intelligence Office Server には、J2EE アプリケーション・サーバーが必要です。

注意: Oracle Business Intelligence Enterprise Edition には、Java 2 Platform Standard Edition 1.5.x が 必要です。

Web ポータルのサポート

JSR-168 準拠ポータルの XSLT v2 と WSRP 2 は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition での使用がサポートされています。

警告： JSR-168 標準の実装がポータル・ベンダーによって異なるため、表 9 に記載されたポータル製品の使用を強くお勧めします。

表 9 に示す Web ポータルは、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で動作確認されています。

表 9. 動作確認されている Web ポータル

ポータル	バージョン
Oracle Portal	10.1.4.x
Oracle WebCenter	10.1.3.2
IBM WebSphere Portal Server	5.1, 6.0

Single Sign-On (SSO) Server のサポート

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition ではプラグgable SSO アーキテクチャが採用されており、これによって、HTTP や HTTPS を使用して SSO 認証トークンの伝播を処理する SSO 製品を統合できます。SSO システムの前提条件の詳細は、『Oracle Business Intelligence Enterprise Edition デプロイメント・ガイド』を参照してください。

表 10 に示す SSO Server は、Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition で動作確認されています。

表 10. 動作確認されている SSO Server

SSO Server ¹	バージョン
Oracle SSO 10g	10.1.2.0.2、10.1.4.x
IBM Tivoli	6.0
CA eTrust SiteMinder	6.0

1. Oracle Business Intelligence Publisher では、Oracle SSO のみの使用がサポートされます。

ID 管理のサポート

LDAP Certified Product Standard V2 または V3 は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition での使用がサポートされています。詳細は、<http://www.opengroup.org/openbrand/register/dkm0.htm> を参照してください。

表 11 に示す ID 管理アプリケーションは、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で動作確認されています。

表 11. 動作確認されている ID 管理アプリケーション

ID 管理システム	バージョン
Oracle Identity Management 10g	10.1.2.0.2、10.1.4.x
IBM LDAP Server	5.x
Windows ADSI	2000, 2003
Windows のネイティブ認証 (Kerberos)	なし
Novell Identity Manager	3.0.1
IBM Tivoli Identity Management	6.0
Sun Java System Identity Server	5.x

SMTP に対する Oracle Business Intelligence Delivers のサポート

Oracle Business Intelligence Delivers は、MIME RFC 2110 に準拠した集計 HTML カプセル化を使用して、MIME コンテンツを生成し、それを SMTP プロトコルを介して SMTP サーバーに送信します。ただし、コンテンツのレンダリングは、実装されている電子メール・クライアントによって異なります。

ODBC クライアントと JDBC クライアントのインターフェースに対するサポート

サード・パーティのソフトウェア製品が SQL クライアントとして Oracle Business Intelligence Server に接続できるように、オラクル社では ODBC クライアントと JDBC クライアントのドライバを用意しています。Microsoft Access や Business Objects など数多くのクライアントを使用できますが、オラクル社では特定のクライアントについて明示的な動作確認を行っていません。

SQL92 以上が使用されるクライアント・インターフェースの ODBC 2.0、ODBC 3.5、JDBC 2.0 および JDBC 2.1 が、この目的のためにサポートされています。

Oracle Business Intelligence Server の ODBC ドライバでは、UTF-16 キャラクタ・セットの ODBC 3.5 アプリケーションが読み取り専用アクセスでサポートされています。Oracle Business Intelligence Server の JDBC ドライバでは、JDBC 2.0/2.1 API のクライアントやアプリケーションが読み取り専用アクセスでサポートされています。

Oracle Business Intelligence Server のクライアントとしてサポートされている製品

表 12 には、Oracle Business Intelligence Server のクライアントとしてサポートされている製品が記載されています。

表 12. Oracle Business Intelligence Server のクライアントとしてサポートされている製品

製品とバージョン
Oracle Essbase 11.1.1
Oracle Smart Space Fusion Edition 11.1.1
Oracle Smart View for Office Fusion Edition 11.1.1
Oracle EPM Workspace Fusion Edition 11.1.1
Oracle Hyperion Interactive Reporting 9.3.1、11.1.1
Business Objects: Enterprise XI 3.0 (Windows)

サポートされているデータソース

注意： Oracle Business Intelligence では、様々なデータベースのパフォーマンスを最適化できるように、データベース固有のコードが作成されます。データベースのバージョンの違いによって変更が生じるため、明示的にテストされたバージョンのデータベース・クライアントとサーバー・ソフトウェアのみを次に記載しています。他のサービス・パックやパッチ・レベルのテストおよび動作確認が行われた場合、その情報も今後お知らせします。

上位のパッチ・レベルを実行しているユーザーが Oracle Business Intelligence ソフトウェアの使用時に問題を検出した場合、グローバル・テクニカル・サポートはその問題を通常どおりに調査します。Oracle Business Intelligence ソフトウェアに欠陥が検出された場合、通常のサポート・プロセスに従って、その欠陥が修正される可能性と時期を判断します。そのような場合、検出された欠陥は、Oracle Business Intelligence ソフトウェアではなく、上位のバージョンのデータベース・ソフトウェアに存在するとみなされます。オラクル社では、その欠陥を回避するパッチを作成することはできませんが、そのパッチは保証できず、実際には技術的に不可能な場合もあります。その場合、ユーザーはデータベース・ベンダーに問い合せて、そのデータベース・ソフトウェアの問題を修正するパッチを入手するか、データベース・ソフトウェアのバージョンを下げ、Oracle Business Intelligence ソフトウェアとともに実行しても問題が発生しないようにする必要があります。

データベースのアップグレード後にユーザーが実施する回帰テストおよび受入れテストでは、本番環境で使用する予定のすべての機能を全面的にテストし、データベース・ソフトウェアのアップグレードにより重大な問題が発生しないことを確認する必要があります。

この項の内容は次のとおりです。

- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition でサポートされているデータソース
- Oracle Real Applications Clusters (RAC) に対するサポート
- マルチディメンショナル・データソースに対するサポート
- ODBC データソースに対するサポート

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition でサポートされているデータソース

Oracle Business Intelligence Server は、表 13 に示すデータソースをクエリー用にサポートしています。また、Oracle Business Intelligence では、25 ページの表 18 で詳述するマルチディメンショナル・データソース、および 26 ページの「ODBC データソースに対するサポート」で詳述する ODBC データソースへの接続が実現します。

Oracle Business Intelligence Publisher では、JDBC の Oracle Business Intelligence Server へのアクセスにより、表 13 に示すデータソースのデータに対するレポートが提供されます。Oracle Business Intelligence Publisher で直接サポートされているデータソースおよび接続ソフトウェアの詳細は、『Oracle Business Intelligence Publisher Certification Information』を参照してください。Oracle Business Intelligence Publisher バージョン 10.1.3.3 および 10.1.3.4 のマニュアルは、各リリースのドキュメント・ライブラリの一部として入手できます。Oracle Business Intelligence ドキュメント・ライブラリは、次の Oracle Technology Network のサイトで入手できます（必要に応じて、URL をコピーしてご使用のブラウザに貼り付けてください）。

http://www.oracle.com/technology/documentation/bi_pub.html

Oracle Business Intelligence Delivers Scheduler でサポートされているデータベースは、表 15 に記載されています。Oracle Business Intelligence Publisher Scheduler でサポートされているデータベースは、表 16 に記載されています。

Oracle Business Intelligence Server でサポートされているデータソース

Oracle Business Intelligence Server は、表 13 に示すデータソースをクエリー用にサポートしています。

注意：表 13 に記載されている 64 ビット版データベースがサポートされています。

表 13. Oracle Business Intelligence Server でサポートされているデータソース

ベンダーと製品	バージョン	接続ソフトウェア
Microsoft SQL Server 2000	2000 Service Pack 3 以上	SQL Server ODBC Driver/ Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.7 以上 DataDirect ODBC ドライバの バージョン 5.1 以上 ¹ (Windows 以外のシステム上で動作する Oracle Business Intelligence Server 用)

表 13. Oracle Business Intelligence Server でサポートされているデータソース

ベンダーと製品	バージョン	接続ソフトウェア
Microsoft SQL Server 2005	2005、2005 SP1 以上	SQL Server Native Client 2005-99-1355-00/ SQL Server ODBC Driver バージョン 3.70.08.20 ² Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.8 DataDirect ODBC ドライバのバージョン 5.1 以上 ¹ (Windows 以外のシステム上で動作する Oracle Business Intelligence Server 用)
Oracle Hyperion Essbase	7.1.6.1, 9.2.0.3, 9.3.1.0	Essbase Client 9.3.1
Oracle Essbase	11.1.1	Essbase Client 9.3.1、11.1.1
IBM DB2 Universal Database (UDB) Enterprise Edition/ Workgroup Edition for Windows、UNIX、Linux (IA-32)	8.2 (FixPak 5 シリーズ以上)	DB2 SDK 8.2.x Client
IBM DB2 Universal Database (UDB) Enterprise Edition	バージョン 9.1	IBM DB2 UDB Admin Client、DB2 v8.1 FP12s 以上
IBM DB2 Universal Database (UDB) (OS/390 および z/OS 用 (NFM モードのみ))	バージョン 8	IBM DB2 UDB Admin Client、DB2 v8.1 FP12s
IBM Informix ³	10.0	DataDirect ODBC ドライバのバージョン 5.1 以上 ¹
Oracle Database 9i ⁴	9.2.0.7 以上	Oracle ネイティブ・クライアント 9.2.0.7 または 10.1.0.5 以上
Oracle Database 10g ⁴	10.1.0.5 以上	Oracle ネイティブ・クライアント 10.1.0.5/ ネイティブ・クライアント OCI 10g2
	10.2.0.2.0 以上	Oracle ネイティブ・クライアント 10.2.0.1.0 以上またはネイティブ・クライアント OCI 10g2
Oracle Database 11g ⁴	11.1.0.6.0 以上	Oracle ネイティブ・クライアント OCI 11g または Oracle ネイティブ・クライアント 11g
NCR Teradata	V2R5.1.x、V2R6.0、V2R6.1、V2R6.2	ODBC Driver for Teradata 3.6.0.0 (03.06.00.00) 以上 ⁵
	12.0 ⁶	Teradata 12.00.01.10 Client

表 13. Oracle Business Intelligence Server でサポートされているデータソース

ベンダーと製品	バージョン	接続ソフトウェア
Netezza	3.1	Netezza 用ネイティブ ODBC ドライバ (バージョン 3.1)
	4.0	Netezza 用ネイティブ ODBC ドライバ (バージョン 3.1)
Sybase Adaptive Server Enterprise (ASE)	15.0	DataDirect ODBC ドライバのバージョン 5.1 以上 ¹
Sybase IQ	12.7	Sybase 用ネイティブ ODBC ドライバ (バージョン 12.7)
Sybase SQL Anywhere ⁷	9.0	対応する SQL Anywhere ODBC ドライバ
Oracle Retail RPAS Enterprise Engine (Retek RPAS) ⁸	12.1.x	Windows: DataDirect OpenAccess ODBC Client (バージョン 5.6) AIX: DataDirect OpenAccess ODBC ドライバ (バージョン 5.6)
TimesTen	7.2	TimesTen 用ネイティブ ODBC ドライバ (バージョン 7.2) ⁹
XMLA Data Source		

- Linux と UNIX 用の DataDirect Connect ODBC ドライバ (バージョン 5.3) は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3.1 以上で用意されています。「Oracle BI EE 10.1.3.3.1 以上にバンドルされている DataDirect Connect ODBC ドライバ (バージョン 5.3) のサポート」を参照してください。
- Microsoft では、SQL Server Native Client を Microsoft SQL Server 2005 とともに使用することを推奨しています。
- IBM Informix は、AIX プラットフォームでのみ動作確認されています。
- Oracle 9i および 10g データベースの場合、ネイティブ・クライアント OGI 10g2 をお勧めします。
- 必要な Teradata 用 ODBC ドライバの正確なバージョンは、オペレーティング・システムとプロセッサ (32 ビットまたは 64 ビット) によって異なります。使用するオペレーティング・システムでサポートされている正確な 3.6.0.0x バージョンの詳細は、Teradata 社の Web サイトでドライバと接続ソフトウェアのダウンロードに関する Web ページを参照してください。
- NCR Teradata 12.0 は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.4 でサポートされています。これは、Windows 上の Oracle Business Intelligence Server で動作する Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3 でサポートされています。
- Sybase SQL Anywhere は、Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics Client に対してのみサポートされます。
- Oracle Business Intelligence では、Retek RPAS は Windows と AIX 5.3 のプラットフォームでのみサポートされています。
- Oracle Business Intelligence Server では、TimesTen データベースに対して ODBC 2.0 インタフェースが ASCII でサポートされています。UTF-8 および UTF-16 はサポートされていません。

Oracle BI EE 10.1.3.3.1 以上にバンドルされている DataDirect Connect ODBC ドライバ (バージョン 5.3) のサポート

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition リリース 10.1.3.3.1 では、MS SQL Server、Informix および Sybase ASE のデータベースに接続するために、Linux と UNIX のオペレーティング・システム用に DataDirect Connect ODBC ドライバ (バージョン 5.3) が用意されています。Oracle BI EE 10.1.3.3.1 以上に用意されている DataDirect Connect ODBC ドライバをインストールおよび使用方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence 新機能ガイド』を参照してください。

32 ビット版および 64 ビット版の DataDirect 5.3 ドライバは、AIX、Solaris および HP-UX (Itanium 版) で使用できます。32 ビット版のドライバは、Linux および HP-UX (PA-RISC 版) で使用できます。

表 14. Oracle Business Intelligence Enterprise Edition にバンドルされている DataDirect Connect ODBC ドライバ (バージョン 5.3)

DataDirect ドライバのバージョン	サポートされているオペレーティング・システム ¹	データベース接続先 ²
DataDirect Connect Driver バージョン 5.3 (32 ビット版および 64 ビット版)	AIX (32 ビット版および 64 ビット版) Solaris (32 ビット版および 64 ビット版) HP-UX (Itanium 版)	MS SQL Server、Informix、Sybase ASE (32 ビット版および 64 ビット版)
DataDirect Connect Driver バージョン 5.3 (32 ビット版)	Red Hat Enterprise Linux、Oracle Enterprise Linux HP-UX (PA-RISC 版)	MS SQL Server、Informix、Sybase ASE (32 ビット版および 64 ビット版)

1. サポートされているオペレーティング・システムのバージョンは、表 6 に記載されている Oracle Business Intelligence Server に対応するオペレーティング・システムのバージョンを参照してください。
2. サポートされているデータベースのバージョンは、前述の表 13 を参照してください。

Oracle Business Intelligence Delivers Scheduler でサポートされているデータベース

Oracle Business Intelligence Delivers Scheduler は、表 15 に示すデータベースをサポートします。

表 15. Oracle Business Intelligence Delivers Scheduler でサポートされているデータベース

ベンダー、製品およびバージョン	接続ソフトウェア
Microsoft SQL Server 2000 2000 Service Pack 3 以上	SQL Server ODBC Driver/Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.7 以上 DataDirect ODBC ドライバのバージョン 5.1 以上 ¹ (Windows 以外のシステム上で動作する Oracle Business Intelligence Delivers Scheduler 用)

表 15. Oracle Business Intelligence Delivers Scheduler でサポートされているデータベース

ベンダー、製品およびバージョン	接続ソフトウェア
Microsoft SQL Server 2005 2005、2005 Service Pack 1 以上	SQL Server Native Client 2005-99-1355-00/ SQL Server ODBC Driver バージョン 3.70.08.20 ² Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.8 DataDirect ODBC ドライバのバージョン 5.1 以上 ¹ (Windows 以外のシステム上で動作する Oracle Business Intelligence Delivers Scheduler 用)
IBM DB2 UDB 8.2 Fix Pack 5s 以上	DB2 SDK 8.2.x Client
IBM DB2 UDB 9.1	IBM DB2 UDB Admin Client、DB2 v8.1 FP12s 以上
Oracle Database 9i ³ 9.2.0.7 以上	Oracle ネイティブ・クライアント 9.2.0.7 または 10.1.0.5 以上
Oracle Database 10g ³ 10gR1: 10.1.0.5 以上 10gR2: 10.2.0.2.0 以上	Oracle ネイティブ・クライアント 10.1.0.5/ ネイティブ・クライアント OCI 10g2 Oracle ネイティブ・クライアント 10.2.0.1.0 以上またはネイティブ・クライアント OCI 10g2
Oracle Database 11g ⁴ 11gR1: 11.1.0.6.0 以上	Oracle ネイティブ・クライアント OCI 11g または Oracle ネイティブ・クライアント 11g

1. Linux と UNIX 用の DataDirect Connect ODBC ドライバ (バージョン 5.3) は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3.1 以上で用意されています。「[Oracle BI EE 10.1.3.3.1 以上にバンドルされている DataDirect Connect ODBC ドライバ \(バージョン 5.3\) のサポート](#)」を参照してください。
2. Microsoft では、SQL Server Native Client を Microsoft SQL Server 2005 とともに使用することを推奨しています。
3. Oracle 9i および 10g データベースの場合、ネイティブ・クライアント OGI 10g2 をお勧めします。
4. このマニュアルのリビジョン H の更新: Oracle Database 11g が、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3 および 10.1.3.4 の Oracle Business Intelligence Delivers Scheduler のデータベースとしてサポートされます。

Oracle Business Intelligence Publisher Scheduler でサポートされているデータベース

Oracle Business Intelligence Publisher Scheduler は、表 16 に示すデータベースをサポートします。

表 16. Oracle Business Intelligence Publisher でサポートされているデータベース

ベンダー、製品およびバージョン	接続ソフトウェア
Oracle 9i、10g	Oracle Native JDBC Driver
Oracle 11g ¹	Oracle Native JDBC Driver
IBM DB2 Universal Database (UDB) EE 8.2	DataDirect JDBC Driver
IBM DB2 V9	DataDirect JDBC Driver
Microsoft SQL Server 2000	DataDirect JDBC Driver
Microsoft SQL Server 2005	DataDirect JDBC Driver
Sybase Adaptive Server Enterprise 15 ¹	DataDirect JDBC Driver
MySQL 4.1、5.0	MySQL Native JDBC Driver

1. Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.4 の Oracle Business Intelligence Publisher Scheduler でサポートされています。

Oracle Real Applications Clusters (RAC) に対するサポート

表 17 に、Oracle RAC に対するサポートを示します。

表 17. Oracle RAC に対するサポート

Oracle サーバーのバージョン	動作確認されている Oracle バージョン
Oracle Database 9i Enterprise Edition	9.2.0.7 以上
Oracle Database 10g Enterprise Edition	10.2.0.3 以上
Oracle Database 11g Enterprise Edition	11.1.0.6

マルチディメンショナル・データソースに対するサポート

Oracle Business Intelligence は、表 18 に示すマルチディメンショナル・データソースをサポートします。

表 18. 動作確認されているマルチディメンショナル・データソース

ベンダーと製品	バージョン
Microsoft SQL Server Analysis Services	2000 Service Pack 3、2005

表 18. 動作確認されているマルチディメンショナル・データソース

ベンダーと製品	バージョン
SAP BW	3.5 (Patch level 15 以上)、7.0 (Patch level 06 以上)
Oracle OLAP	10.2.0.2.0

ODBC データソースに対するサポート

Oracle Business Intelligence は ODBC をサポートしているため、Oracle Business Intelligence Server は、ODBC 2.0、2.1 または 3.5 の規格をサポートするようリレーショナル・データベース管理システムに対してもクエリーすることができます。このリレーショナル・データベース管理システムは、データ・ウェアハウス、業務系データ・ストア、トランザクション・システムのいずれであってもかまいません。

Oracle Business Intelligence Server では、ODBC 2.0 や ODBC 2.1 に準拠するデータベースやデータソースへのアクセスが、8 ビット ASCII コードのキャラクタ・セットでサポートされています。Oracle Business Intelligence Server では、ODBC 3.5 に準拠するデータベースやデータソースへのアクセスが、UTF-16 (Unicode) のキャラクタ・セットでサポートされています。

SSL 互換性

SSL 1996 対応 Secure Socket Layer (SSL V3.0) プロトコルと SASL 仕様 (JSR 28) が、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition での使用でサポートされています。

仮想化と仮想マシンのサポート

表 19 に示すように、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition は、Linux x86 および Linux x86-64 オペレーティング・システム上の Oracle VM で動作確認されています。Oracle VM の詳細は、Oracle Metalink (<http://metalink.oracle.com>) の Metalink Note 464756.1 と 464754.1 を参照してください。

表 19. Oracle VM で実行される Oracle Business Intelligence との動作確認が行われた Linux オペレーティング・システム

オペレーティング・システム ¹
Red Hat Enterprise Linux AS 4.x
Red Hat Enterprise Linux Server/Advanced Platform 5
Oracle Enterprise Linux 4
Oracle Enterprise Linux 5

1. 64 ビット版の Linux のサポート：Oracle BI EE ソフトウェアは 32 ビット版です。ソフトウェアは、32 ビット・エミュレーションをサポートする 64 ビット・プロセッサで実行できます。サポートされているプロセッサは、AMD64 および EM64T です。

Sun Solaris Containers と Sun Solaris Zones が、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition でサポートされているハードウェア・プラットフォームの Solaris 10 でサポートされています。Solaris 10 でサポートされているハードウェア・プラットフォームの一覧は、表 6 を参照してください。

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition は、Metalink Note 249212.1 (Oracle Metalink (<http://metalink.oracle.com>) で入手可能) に記載されているように他のオラクル社製品のポリシーと整合している場合に VMware 仮想環境で使用できます。

クライアント環境の要件

この項の内容は次のとおりです。

- サポートされている Web ブラウザ
- サポートされているクライアントのオペレーティング・システム

サポートされている Web ブラウザ

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition は、表 20 に示す Web ブラウザをサポートします。

表 20. サポートされている Web ブラウザ

クライアントのオペレーティング・システム	サポートされている Web ブラウザ
Microsoft Windows	Microsoft Internet Explorer 6.x ¹ Microsoft Internet Explorer 7.0 ¹ Firefox 1.5.x Firefox 2.0
Microsoft Windows Vista	Microsoft Internet Explorer 7.0 ¹
Linux	Firefox 1.5.x Firefox 2.0
Sun Solaris	Firefox 2.0
Apple Mac OS 10.x	Firefox 2.0

1. ヘブライ語ロケール (HEB) は、Microsoft Internet Explorer でのみ使用できます。これは、Oracle Business Intelligence Publisher コンポーネントには適用しません。

サポートされているクライアントのオペレーティング・システム

Oracle Business Intelligence は、表 21 に示すクライアントのオペレーティング・システムをサポートします。

表 21. サポートされているクライアントのオペレーティング・システム

クライアント・タイプ	オペレーティング・システムとパッチ・レベル
Oracle Business Intelligence Administration Tool	Microsoft Windows 2000
Oracle Business Intelligence Catalog Manager	Microsoft Windows 2003 SP1 以上 (32 ビット版のみ)
Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics Client	Microsoft Windows XP SP2 以上
Oracle Business Intelligence Briefing Book Reader	Microsoft Windows Vista
Oracle Business Intelligence Job Manager	
Oracle Business Intelligence Publisher Desktop ¹	
Oracle Business Intelligence Add-in for Microsoft Office ²	Microsoft Windows 2003 SP1 以上 (32 ビット版のみ)
	Microsoft Windows XP SP2 以上
	Microsoft Windows Vista

1. Oracle Business Intelligence Publisher Desktop TTemplate Builder Add-in for Microsoft Word には、JRE バージョン 1.4 以上と Microsoft .Net Framework 2.0 が必要です。
2. Oracle Business Intelligence Add-in for Microsoft Office および Oracle Business Intelligence Publisher Desktop Excel Analyzer Add-in for Microsoft Excel には、Microsoft .Net Framework 2.0 が必要です。

Oracle Business Intelligence for Microsoft Office では、表 22 に示す Microsoft Office のバージョンとアプリケーションがサポートされています。

表 22. Oracle Business Intelligence for Microsoft Office でサポートされている Microsoft Office アプリケーション

Microsoft Office アプリケーション	バージョン
Excel	2003, 2007
PowerPoint	2003, 2007

Oracle Business Intelligence Publisher Desktop は、表 23 に示す Microsoft Office アプリケーションをサポートします。

表 23. Oracle Business Intelligence Publisher Desktop でサポートされている Microsoft Office アプリケーション

Oracle Business Intelligence Publisher Desktop コンポーネント	Microsoft Office アプリケーションおよびバージョン
Template Builder Add-in for Microsoft Word	Word 2000、2002、2003、2007
Excel Analyzer Add-in for Microsoft Excel	Excel 2000、2002、2003

Oracle Business Intelligence Publisher は、Microsoft PowerPoint の PowerPoint 2003 と PowerPoint 2007 の出力をサポートしています。

グローバリゼーション要件

Oracle Business Intelligence は、お客様の要望に基づいて、特定の言語の国際化およびローカリゼーションをサポートします。Oracle Business Intelligence 10.1.3.3 および 10.1.3.4 では、表 24 に示す言語を使用できます。サポートされている言語の最新情報については、Oracle サポート・サービスへお問い合わせください。

表 24. Oracle Business Intelligence 10.1.3.3 および 10.1.3.4 で使用可能な言語

言語	言語コード / Oracle Business Intelligence の言語コード	サポートされているデータベース・コード・ページ
アラビア語 ¹	ARA/I_ar	従来型 /Unicode
中国語（簡体字）	CHS/I_zh	Unicode
中国語（繁体字）	CHT/I_zh-tw	Unicode
クロアチア語 ²	HRV/I_hr	従来型 /Unicode
チェコ語	CSY/I_cs	Unicode
デンマーク語	DAN/I_da	従来型 /Unicode
オランダ語	NLD/I_nl	従来型 /Unicode
英語	ENU/I_en	従来型 /Unicode
フィンランド語	FIN/I_fi	従来型 /Unicode
フランス語	FRA/I_fr	従来型 /Unicode
ドイツ語	DEU/I_de	従来型 /Unicode
ギリシャ語 ³	ELL/I_el	従来型 /Unicode
ヘブライ語	HEB/I_iw	従来型 /Unicode

表 24. Oracle Business Intelligence 10.1.3.3 および 10.1.3.4 で使用可能な言語

言語	言語コード / Oracle Business Intelligence の言語コード	サポートされているデータベース・コード・ページ
ハンガリー語	HUN/l_hu	従来型 /Unicode
イタリア語	ITA/l_it	従来型 /Unicode
日本語	JPN/l_ja	従来型 /Unicode
韓国語	KOR/l_ko	Unicode
ノルウェー語	NOR/l_no	従来型 /Unicode
ポーランド語	POL/l_pl	従来型 /Unicode
ポルトガル語 (ブラジル)	PTB/l_pt-br	従来型 /Unicode
ポルトガル語 (ヨーロッパ)	PTG/l_pt	従来型 /Unicode
ルーマニア語	ROM/l_ro	従来型 /Unicode
ロシア語	RUS/l_ru	従来型 /Unicode
スロバキア語	SKY/l_sk	従来型 /Unicode
スペイン語	ESN/l_es	従来型 /Unicode
スウェーデン語	SVE/l_sv	従来型 /Unicode
タイ語 ¹	THA/l_th	従来型 /Unicode
トルコ語	TRK/l_tr	従来型 /Unicode

1. Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3.1 で使用できます。Oracle Business Intelligence のグラフ作成エンジン (Corda) では、アラビア語とタイ語はサポートされていません。グラフを使用可能にする方法としては、グラフが含まれている Oracle Business Intelligence Publisher レポートを使用する方法があります。詳細は、[34 ページの表 27](#) を参照してください。
2. Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3.2 で使用できます。注意 : Oracle Business Intelligence Add-in for Microsoft Office は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition version 10.1.3.3.3 ではクロアチア語で使用できます。
3. このマニュアルのリビジョン F および旧版には、不正な 3 文字の言語コードが使用されています。このマニュアルのリビジョン G に、訂正されたコードが記載されています。

サポートされている環境の概要

同機種環境と異機種環境

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition Infrastructure のコンポーネントは、表 25 で定義する例に示すように、様々な同機種および異機種のサーバー環境でサポートされます。同機種環境では、データベース、Oracle Business Intelligence Server および Oracle Business Intelligence Presentation Services が、すべて同じプラットフォームにデプロイされます。異機種環境では、これらのサーバーは、サポートされている別々のプラットフォームにデプロイできます。

表 25. Oracle Business Intelligence アプリケーションでサポートされている同機種環境および異機種環境の例

データベース	Oracle Business Intelligence Server	Oracle Business Intelligence Presentation Services	Oracle Business Intelligence Web Server
IBM DB2 UDB IBM DB2 ESE IBM DB2 UDB for OS/390、z/OS	Microsoft Windows 2000/2003 Linux (14 ページの表 6 を参照)	Linux (14 ページの表 6 を参照) Microsoft Windows 2000/2003	Microsoft Windows 2003 Server で実行される Microsoft IIS Web Server または Red Hat 4.x で実行される Oracle Application Server OC4J/HTTP リリース 10.1.3.1 (Web サーバーの動作確認については、16 ページの表 8 を参照)
Oracle Database 9i Oracle Database 10g Oracle Database 11g			
Microsoft SQL Server 2000 Microsoft SQL Server 2003 Microsoft SQL Server 2005			
NCR Teradata			Microsoft Windows 2000/2003 で実行される Apache Tomcat

3

製品およびプラットフォームの可用性に関する最新情報

製品および機能の可用性

この製品で一般的に利用できる機能の一部が、特定の運用環境で利用できない場合があります。これは、ほとんどの場合、サード・パーティ製品のサポートの制限によるものです。ただし、特定の運用環境で個別の機能が利用できなくても、製品全体としては、仕様どおりに動作します。Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition リリース 10.1.3.3 および 10.1.3.4 製品の可用性の例外を、[33 ページの表 26](#) に示します。機能の可用性の例外は、[34 ページの表 27](#) に示します。

表 26. 製品の可用性の例外

Oracle 製品	制限タイプ	可用性の問題
Oracle Business Intelligence	言語	ヘブライ語ロケールは、Microsoft Internet Explorer でのみ使用できます。この例外は、Oracle Business Intelligence Publisher コンポーネントには適用しません。
Oracle Business Intelligence Add-in for Microsoft Office	言語	Oracle Business Intelligence for Microsoft Office は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3.0 では英語でのみ使用できます。
Oracle Business Intelligence Add-in for Microsoft Office	言語	Oracle Business Intelligence for Microsoft Office は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3.2 ではクロアチア語で使用できません。
Oracle Business Intelligence Delivers	プラットフォーム	Oracle Business Intelligence Delivers は、HP-UX (64 ビット版 Itanium) の Oracle Business Intelligence Scheduler を IBM DB2 で Scheduler データベースとして組み合わせて使用することはサポートされていません。
Oracle Business Intelligence Delivers	プラットフォーム	Oracle Business Intelligence Delivers (Scheduler データベース) は、Teradata でサポートされていません。ベスト・プラクティスは、Teradata をクエリーのための「通常の」バックエンド・データベース用に使用し、Oracle、DB2 または SQL Server をスケジューラ・データベース用に使用することです。

表 26. 製品の可用性の例外

Oracle 製品	制限タイプ	可用性の問題
Oracle Business Intelligence	プラットフォーム	オラクル社では、Veritas などのサード・パーティによるクラスタ化製品を使用した、Oracle Business Intelligence のクラスタ化のテストまたはサポートを行っていません。
Oracle Business Intelligence	ディレクトリ・サービス (LDAP)	Oracle Business Intelligence は、認証目的にのみ Microsoft Active Directory をサポートします。

表 27. 機能の可用性の例外

製品	機能	制限タイプ	可用性の問題
Oracle Business Intelligence	Usage Tracking	機能	Usage Tracking 機能は、Teradata プラットフォームでサポートされていません。
Oracle Business Intelligence	グラフ作成機能	言語	Oracle Business Intelligence のグラフ作成エンジン (Corda) では、アラビア語とタイ語はサポートされていません。グラフ作成機能をこれらの言語で使用可能にするには、グラフが含まれている Oracle Business Intelligence Publisher レポートを使用してください。この方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence 新機能ガイド』を参照してください。

4

サポートされているソフトウェアおよび 付属プログラム

この章の内容は次のとおりです。

- サポートされているソフトウェア
- 付属プログラム
- ライセンス契約

サポートされているソフトウェア

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3 および 10.1.3.4 は、表 28 に示すサード・パーティのソフトウェア製品をサポートします。これらの製品は、販売元のベンダーから直接入手する必要があります。

表 28. サポートされているソフトウェア

ベンダーと製品	バージョン	関連するモジュール	機能
Adobe Acrobat Reader	6.0, 7.0	Oracle Business Intelligence	Portable Document Format (PDF) ドキュメントの表示に使用
Adobe Flash Player	8,9	Oracle Business Intelligence Presentation Services	Web クライアント・ブラウザでグラフの表示に使用
	9	Oracle Business Intelligence Publisher	レポート出力を Flash テンプレートから表示するために使用
Adobe Flex Builder IDE	2.0.1	Oracle Business Intelligence Publisher	Flash テンプレートの作成に使用
IBM DB2 Cube Views	DB2 UDB 8.2	Oracle Business Intelligence	Oracle Business Intelligence のメタデータを DB2 に統合し、マルチディメンショナル分析を迅速化するために使用
IBM Directory Server	5.1 以上	Oracle Business Intelligence (LDAP Security Adapter)	LDAP のサポート (LDAP Security Adapter)

付属プログラム

表 29 に示す付属プログラムは、その所有者であるベンダーとのライセンス契約を通じて、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3 および 10.1.3.4 に組み込まれます。すべての付属プログラムの使用は、ユーザー企業とオラクル社間のソフトウェア・ライセンスおよびサービス契約 (SLSA) の条件で規定されています。

必要な場合に付属プログラムをインストールする方法については、ご使用のプラットフォームのサーバー・インストール・ガイド、および Oracle Business Intelligence ドキュメント・セットの他のインストール情報を参照してください。

ご使用の Oracle Business Intelligence ソフトウェアには、表 29 に示す付属プログラムの一部またはすべてが含まれる場合があります。

表 29. 付属プログラム

ベンダーと製品	バージョン	Oracle Business Intelligence の関連モジュール	配布方法と説明
Apache Software Foundation Xerces - C++	2.6.0、2.7 および 1.6.0	Oracle Business Intelligence Server	埋込み。XML パーサー。
Apache Software Foundation Xerces - Java	1.4.4	Oracle Business Intelligence (Installer)	埋込み。XML パーサー。
Apache Software Foundation Apache file upload	1.0	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons BeanUtil	1.6	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons Discovery	1.2.1	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons DBCP	1.2.1	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons Digester	1.7	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons Pool	1.2	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons Collections v3.1	3.1	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Log4j	1.4.8	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons El		Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons Logging	1.04	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。

表 29. 付属プログラム

ベンダーと製品	バージョン	Oracle Business Intelligence の関連モジュール	配布方法と説明
Apache Software Foundation Apache Commons Logging-api	1.04	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Xerces C++	2.4.0	Oracle Business Intelligence Presentation Services	埋込み。
Apache Software Foundation Axis - Java	1.2.1	Oracle Business Intelligence Presentation Services	埋込み。
Corda PopCharts	5.1	Oracle Business Intelligence Presentation Services	埋込み (UNIX)。配布 (Windows)。グラフ作成エンジン。
Crypto++ 3DES algorithm	5.4	Oracle Business Intelligence Server	埋込み。パスワードの暗号化に使用。
DataDirect Connect ODBC Driver Manager	5.1, 5.3 ¹	Oracle Business Intelligence Server	埋込み。サポートされている UNIX プラットフォームに Oracle Business Intelligence ODBC ドライバをロード。
DataDirect Connect ODBC ドライバ 1	5.3	Oracle Business Intelligence Server	配布。UNIX プラットフォーム上の Oracle BI Server で MS SQL Server、Informix および Sybase ASE のデータベースに接続するために使用。
Tivoli Access Manager for eBusiness の IBM Directory Server コンポーネント	5.1	Oracle Business Intelligence LDAP Security Adapter	埋込み。LDAP ディレクトリとの統合による外部ユーザー認証のサポート。
IBM LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) SDK	5.1	Oracle Business Intelligence LDAP Security Adapter	埋込み。LDAP ディレクトリとの統合による外部ユーザー認証のサポート。
IBM LDAP [IBM Global Security Toolkit (GSKit) を含む]	7.0.3.3	Oracle Business Intelligence Server	埋込み。

表 29. 付属プログラム

ベンダーと製品	バージョン	Oracle Business Intelligence の関連モジュール	配布方法と説明
Microsoft InstallShield Developer	5.0 SP1	Oracle Business Intelligence	埋込み。Windows プラットフォームへの Oracle Business Intelligence アプリケーションのインストールに使用。
Microsoft .NET Framework	2.0	Oracle Business Intelligence Add-in for Microsoft Office	配布。
Microsoft Visual Studio 7.0 のランタイム・コンポーネント		Oracle Business Intelligence Installer	配布。
Open SSL	0.9.8c	Oracle Business Intelligence Presentation Services Oracle Business Intelligence Server	埋込み。
OpenSymphony Quartz	1.5.1	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Rogue Wave Stingray Objective Studio の再配布可能コンポーネント	R2000	Oracle Business Intelligence Administration Tool	埋込み。Oracle Business Intelligence Administration Tool に埋め込まれた UI コンポーネント。
Secure Hunny Mail ++	3.1.1.0	Oracle Business Intelligence Scheduler	埋込み。
Sun Java SE	1.5	Oracle Business Intelligence Presentation Services	埋込み。
STLport Consulting の STLport Standard Template Library	4.5.1	Oracle Business Intelligence	埋込み。C++ Standard Template Library
Sybase Adaptive Server Anywhere (ASA)	9.0.1.1922 (Windows のみ)	Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics	埋込み。Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics クライアントによって使用されるデータベース・エンジン。

表 29. 付属プログラム

ベンダーと製品	バージョン	Oracle Business Intelligence の関連モジュール	配布方法と説明
Zlib	1.1.4	Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics	埋込み。添付ファイル、Siebel Remote ファイル および SISNAPI トラフィックの圧縮。
	1.2.3	Oracle Business Intelligence Presentation Services	埋込み。

1. Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.1.3.3.1 以上で使用可能です。

ライセンス契約

今回リリースされる Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition にバンドルされる Apache 製品のライセンス契約の一部を次に示します。

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition は、Apache Software Foundation (www.apache.org) により開発されたソフトウェアを含みます。Apache コンポーネントは、次の条件に準拠します。

The Apache Software License, Version 2.0

Copyright (c) 2006 The Apache Software Foundation, All Rights Reserved

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

The Apache Software License, Version 1.1

Copyright (c) 1999 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- The end-user documentation included with the redistribution, if any, must include the following acknowledgment: "This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)." Alternately, this acknowledgment may appear in the software itself, if and wherever such third-party acknowledgments normally appear.
- The names "Xerces" and "Apache Software Foundation" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact apache@apache.org.
- Products derived from this software may not be called "Apache", nor may "Apache" appear in their name, without prior written permission of the Apache Software Foundation.
- THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

STLport Consulting's STLport Standard Template Library License Agreement

Copyright 1999,2000 Boris Fomitchev

This material is provided "as is", with absolutely no warranty expressed or implied. Any use is at your own risk.

Permission to use or copy this software for any purpose is hereby granted without fee, provided the above notices are retained on all copies. Permission to modify the code and to distribute modified code is granted, provided the above notices are retained, and a notice that the code was modified is included with the above copyright notice.

The Licensee may distribute binaries compiled with STLport (whether original or modified) without any royalties or restrictions.

The Licensee may distribute original or modified STLport sources, provided that:

- The conditions indicated in the above permission notice are met;
- The following copyright notices are retained when present, and conditions provided in accompanying permission notices are met:

Copyright 1994 Hewlett-Packard Company

Copyright 1996,97 Silicon Graphics Computer Systems, Inc.

Copyright 1997 Moscow Center for SPARC Technology.

Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. Hewlett-Packard Company makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. Silicon Graphics makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. Moscow Center for SPARC Technology makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

Open SSL version 0.9.8c License Agreement

Copyright (c) 1998-2006 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1** Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2** Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3** All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
- 4** The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
- 5** Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
- 6** Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

5

計画されている動作確認

この章では、Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition の今後のリリースで計画されている動作確認について説明します。

Web ブラウザに対して計画されている動作確認

表 30. Web ブラウザに対して計画されている動作確認

クライアントのオペレーティング・システム	動作確認が計画されている Web ブラウザ
Windows、Solaris、Mac OS	Firefox 3.0

Web サーバーとアプリケーション・サーバーに対して計画されている動作確認

表 31. Web サーバーとアプリケーション・サーバーに対して計画されている動作確認

Web サーバーとアプリケーション・サーバーに対して計画されている動作確認
Oracle Application Server 10.1.3.4
Microsoft IIS 7

データベースに対して計画されている動作確認

表 32. 動作確認が計画されているデータベース

動作確認が計画されているデータベース
IBM DB2 9.5

